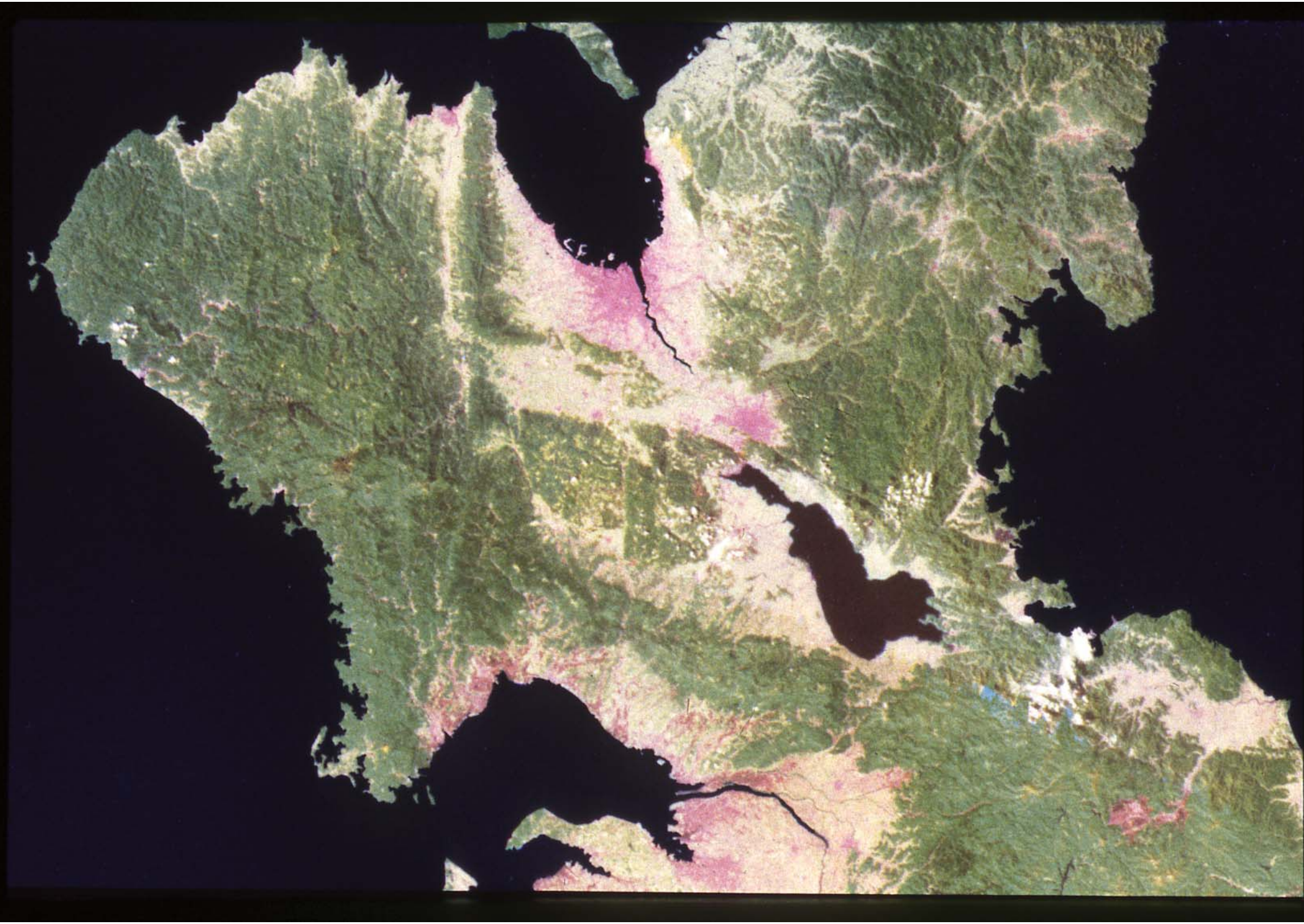


国指定史跡 赤坂今井墳墓（あかさかいまいふんぼ）

赤坂今井墳墓は中郡盆地から福田川の河口へ通じる谷筋に面した丘陵の先端に造られた弥生時代後期末(2世紀末～3世紀初め)の大型方形墳丘墓です。16世紀ごろに山城が築かれたため一部削られていますが、造られた当時は東西36m、南北39m、高さ3.5mの長方形の墳丘と四方に巡る幅5～9mの平らな面からできており、墓域は南北51m、東西45mにわたる当時では日本有数の規模となります。墳丘築造に際しては、南北34m、東西22m、高さ9mにわたって丘陵を切断して墳丘や周辺の平らな面が造成され、より大きく見せるための工夫がなされています。

中心的埋葬施設である第1埋葬は墳丘上面の奥よりに位置し、長さ14m、幅10.5mの規模です。中央上面からこぶし大の石約300個による集石と割られた土器群が出土し、さらに西側には南北に並ぶ一列の柱穴列が見つかっていることから、独特な祭祀（さいし）を行う場があったと考えられています。

第1埋葬の円礫集石・土器群・柱穴のようす

第1埋葬を一部切り込んで造成された第4埋葬は、長さ7m、幅4.2mの規模です。舟底状木棺（ふなぞこじょうもっかん）(長さ4.4m、幅1.3m)の棺内から頭飾り・耳飾り一式、鉄剣1点、ヤリガンナ1点が出土しました。頭飾りは、被葬者の頭の部分に管玉（くだたま）・勾玉（まがたま）が規則正しく三連に連なるもので、布などに編み込んでいたものと考えられます。使用された玉類は確認できたものだけでガラス勾玉22点、ガラス管玉57点、碧玉製管玉（へきぎょくせいくだたま）39点を数え、ガラス管玉の中には、古代中国で兵馬俑にも使用されていた顔料「漢青（かんせい）」(ハン=ブルー)の主成分であるケイ酸銅（さんどう）バリウムが含まれていました。

第4埋葬の頭飾り

第4埋葬のようす

赤坂今井墳墓はその規模、立地、墓上での祭祀（さいし）のあり方を知ることができる丹後を代表する大型墳丘墓であり、丹後地域の弥生社会の発展を理解する上で大変重要なものです。

京丹後市教育委員会

'13 4 11

大風呂南墳墓群（一号墓・二号墓）

大風呂南墳墓群は、今からおよそ千八百年前（弥生時代後期）に作られた、当時の丹後地方を代表する王の墓です。

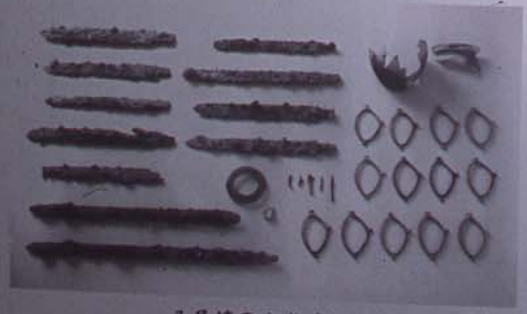
まず、阿蘇海を見下ろす眺望の良い丘陵を削り、そこに大規模な平坦面を確保しました。墳墓群には、二基の墳墓に大小合わせて十の埋葬施設が確認されています。一号墓の中心には、長さ七・三メートル、幅四・三メートルの大きな墓穴を深さ二・一メートルまで掘り込んでいます。その中には、長さ四・三メートルの大きな舟底状の木棺が納められていました。

木棺内部には、朱が敷き詰められ、全国的も出土例の少ないガラス釧（腕輪）一点や、貝の腕輪の形を真似て作られた銅釧（腕輪）十三点、貝で作られた腕輪の一部のほか、ガラス製の勾玉十点、石製管玉二百七十八点の豊富な装飾品と、十一本の鉄剣や、四本の鉄鏃（やじり）、鉄製のヤスなど多量の鉄製品が副葬されていました。その中でも、直径九・七センチのガラス釧は、透明感を持つ淡いコバルトブルーの色調を呈しており、保存状態も良く、完形品として発見されたのは日本ではじめてです。また、弥生時代の墳墓からこれだけ大量の鉄剣が出土したのは全国的に見て例のないことです。

鉄やガラスなど、当時としては貴重な品々を副葬品として持つ大風呂南墳墓群の被葬者は、日本海の海上交通を利用して九州や山陰、遠くは朝鮮半島や大陸と広範囲にわたる交易を掌握していた人物だったと考えられます。

墳墓群より東方を望む

ガラス釧



1号墳の主な遺物

平成十三年十一月

岩滝町文化財保護委員会
岩滝町教育委員会

大田南古墳群

【大田南古墳群】

大田南古墳群は、大小の円墳・方墳からなる総数25基の古墳群である。平成2年以降合計12基の古墳の調査を終了しその結果、この古墳は竹野川流域における古墳時代前期の、有力者の墓域であることが明らかとなっている。

丹後地方と中国大陸・朝鮮半島との交流が検証できる遺跡として、貴重な成果も数多くあげられている。

しかし中世に、古墳群上に山城・矢田城が築かれた際、いくつかの古墳が削平、改変を受けたものと思われる。

(2号墳)

22m×18mほどの方墳で、埋葬施設に舟形の木棺をもっていた。主な副葬品として、棺内から銅鏡1面(画文帯環状乳神獣鏡)、棺外から鉄剣が一振り出土している。被葬者の頭付近(鏡の周辺)には朱の痕跡が認められた。

出土した鏡は中国後漢時代(2世紀後半)に華南地方で製作されたと考えられるもので、鈕に龍の文様をもつことが大きな特色である。同様の鏡は、中国・朝鮮半島で出土例が知られている以外は国内で初めての出土であり、現在京都府の指定文化財とされている。

(4号墳)

26m×16mほどの方墳であり、長大な組合せ式木棺の頭部と推定される側の棺外に、大型の壺がおかれていた。

(5号墳)

18.8m×12.3mの方墳で、組合せ式石棺を埋葬施設としていた。棺内から出土した副葬品には、紀年銘鏡としては、日本最古となる方格規矩四神鏡や、幾重にも布に巻かれていた鉄刀などがみられた。この銅鏡は絹織物にくるまれており おそらくは木箱に収められた状態で棺内に副葬されたと考えられる。 銅鏡の銘文中に刻まれた年号は、中国・魏の年号「青龍三年」(西暦235年)である。これは「魏志倭人伝」に、卑弥呼が魏に使節を送ったと伝えられている、景初三年(西暦239年)の4年前に当たるものであり大変注目を受けた。なお、現在この鏡は国の重要文化財に指定されている。

(6号墳)

径約30mの円墳である。墳頂部に掘られていた墓壙は、縦9.6m・横6.5m・深さ2.5mという巨大な規模をもっていた。埋葬施設は、小石を丁寧に敷きつめ、ベンガラや朱をほどこした礫床を持つ、大きな組合せ式木棺である。木棺の内部にもベンガラが塗られていたと考えられる。副葬品として石釧が2点出土したほか、刀子やヤリガンナなどの鉄製品も多数出土している。

(矢田城)

「峯山旧記」によれば文亀・永正のころ(1501~1520年)一色氏の武将・中条民部により築かれた城である。その後、原主人(のちに麓人)が城主となっているが天正十(1582)年九月(一説に五月)細川氏の一色攻めの際、細川興元本陣によって攻略され落城した。

最高部に位置する主郭は二つの土塁をもち、平坦部において6m×12mの掘立柱建物跡などの遺構が検出された。

また、この主郭を中心に周辺の平坦部にも城の遺構が検出されており、いくつかの堀切りも認められる。

大田南古墳群

青龍三年銘方格規矩四神鏡

5号墳完掘状況

画文帯環状乳神獣鏡

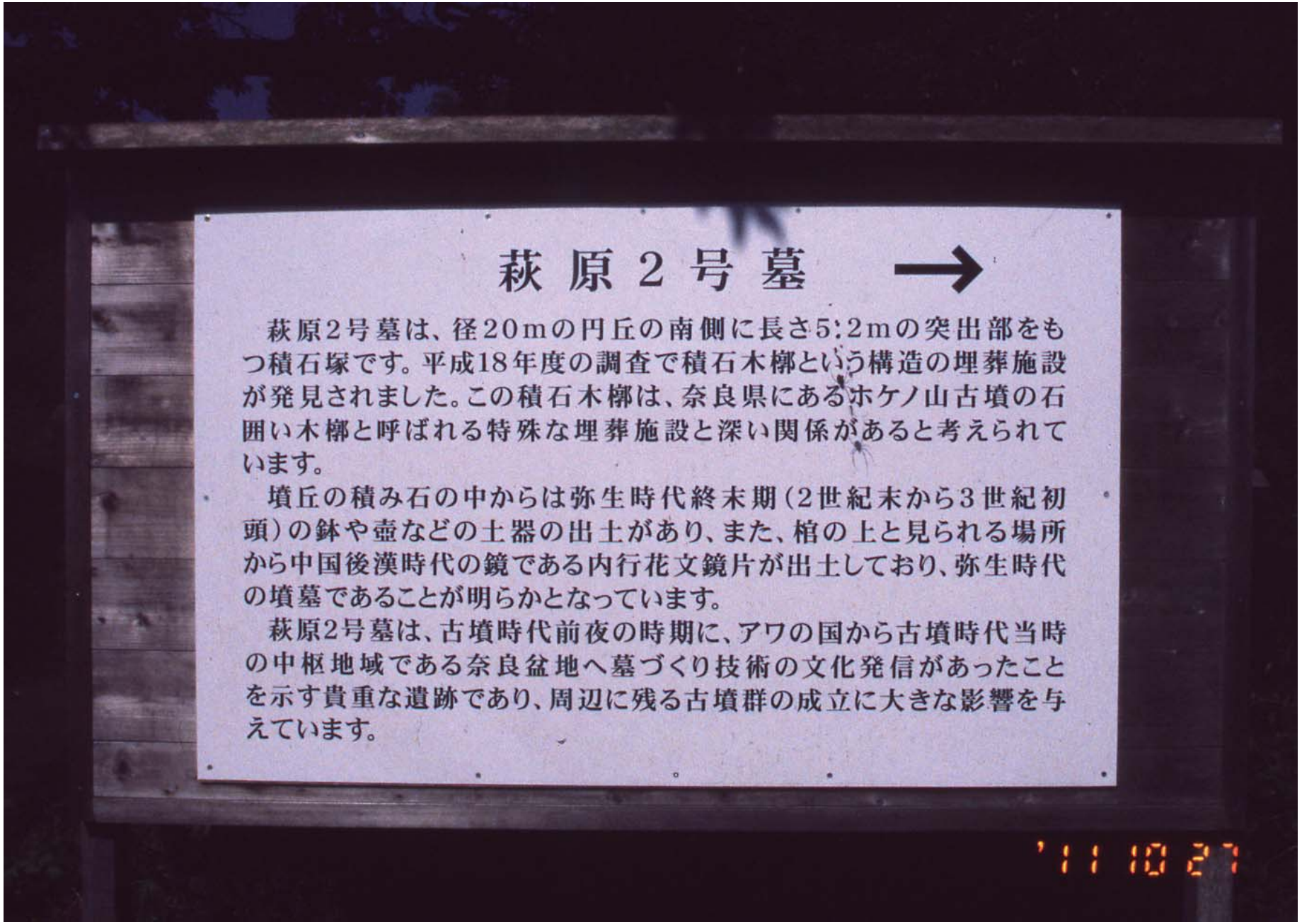
2号墳完掘状況

6号墳完掘状況

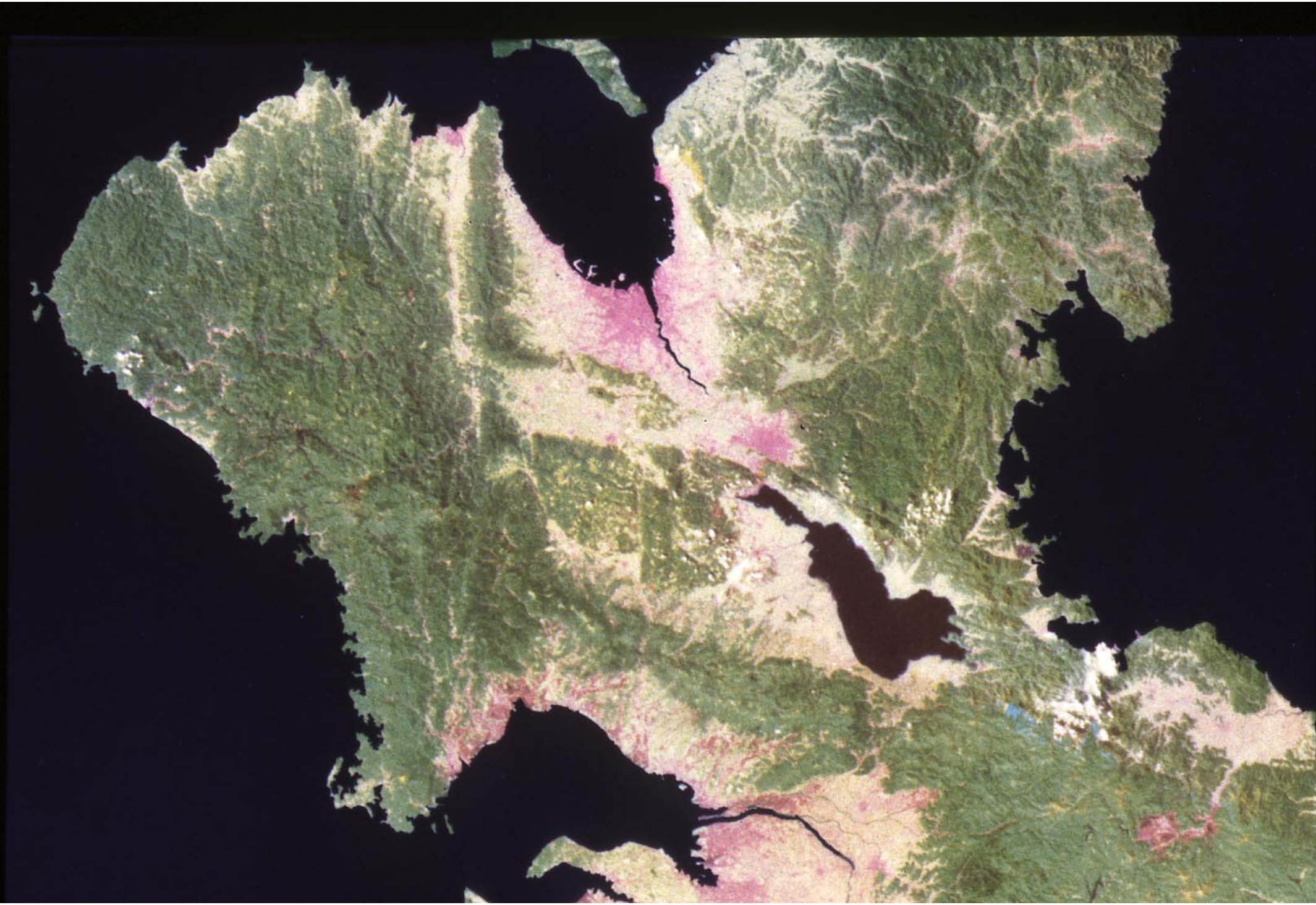
京丹後市教育委員会

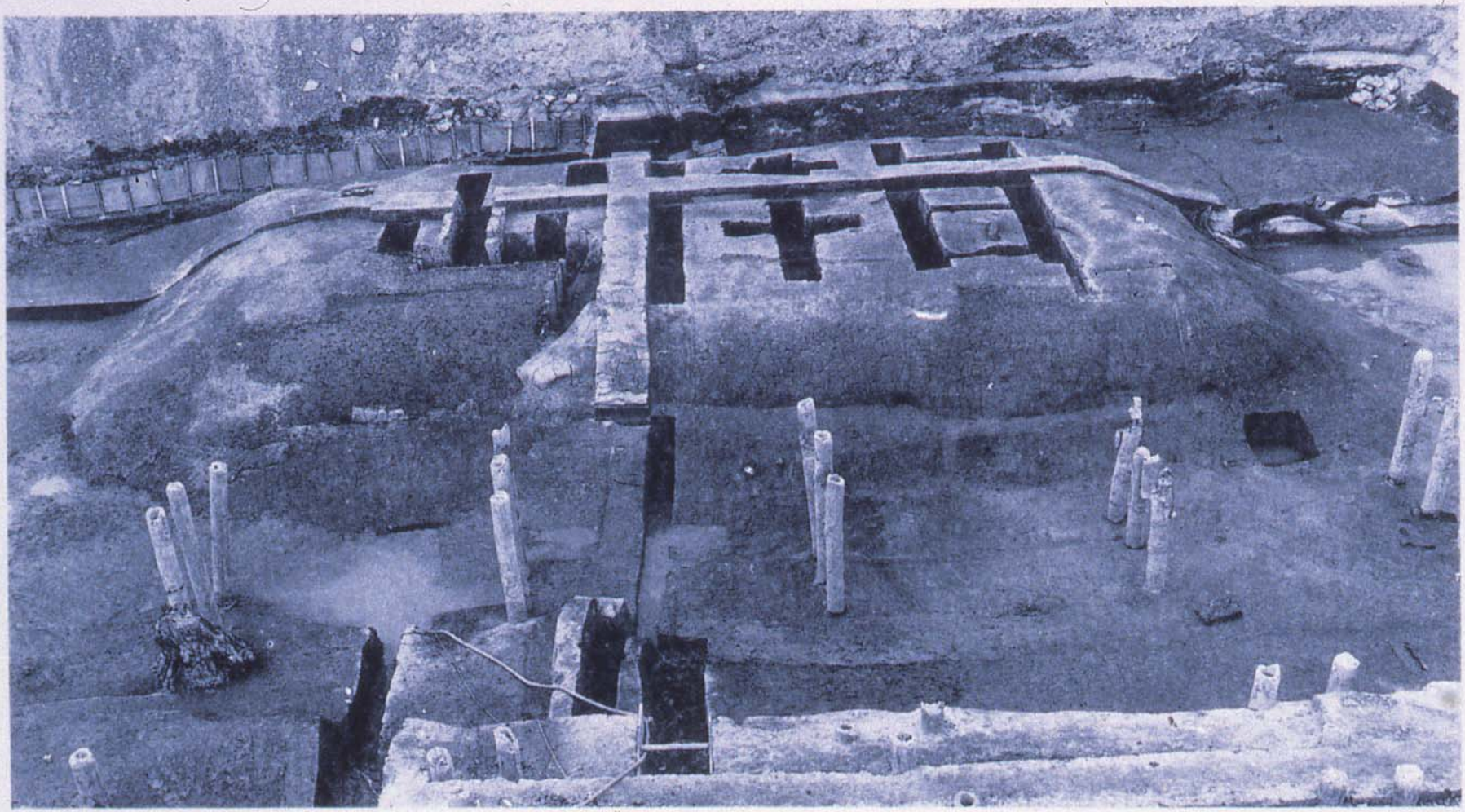
大田南古墳群
京丹後市教育委員会
大田南古墳群
関係者以外
立入
禁止

愛媛南柑


萩原２号墓 →
萩原2号墓は、径20mの円丘の南側に長さ5:2mの突出部をもつ積石塚です。平成18年度の調査で積石木槨という構造の埋葬施設が発見されました。この積石木槨は、奈良県にあるホケノ山古墳の石囲い木槨と呼ばれる特殊な埋葬施設と深い関係があると考えられています。
墳丘の積み石の中からは弥生時代終末期（2世紀末から3世紀初頭）の鉢や壺などの土器の出土があり、また、棺の上と見られる場所から中国後漢時代の鏡である内行花文鏡片が出土しており、弥生時代の墳墓であることが明らかとなっています。
萩原2号墓は、古墳時代前夜の時期に、アワの国から古墳時代当時の中枢地域である奈良盆地へ墓づくり技術の文化発信があったことを示す貴重な遺跡であり、周辺に残る古墳群の成立に大きな影響を与えています。
'11 10 27

'11 10 27

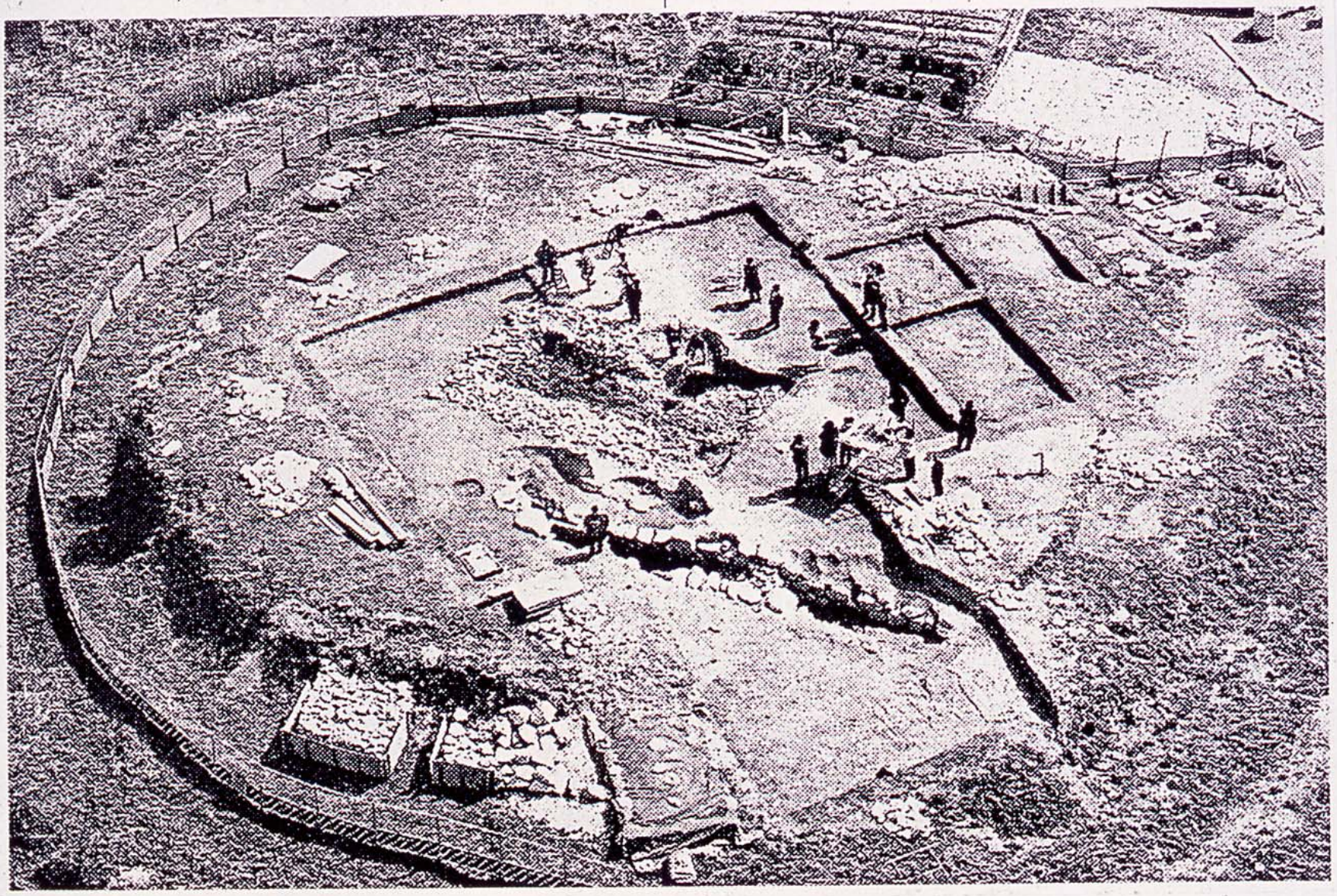




大形長方形の墳丘をもつ墓　墓のまわりに溝をめぐらした墳丘墓で、台状の墳丘上からはコウヤマキ製の木棺が多数発見されている。近畿地方に多くみられる墓のタイプ。大阪府加美遺跡／弥生時代／写真提供・大阪市文化財協会

'95 12 10

「石囲い木槨」や画文帯神獣鏡などが
出土したホケノ山古墳(奈良県桜井市)



'11 3 2

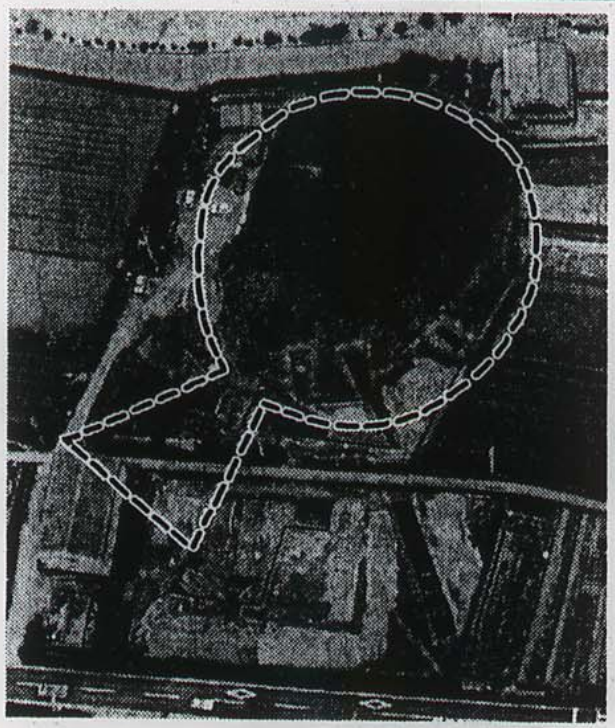
'95 3 24

'95 3.24

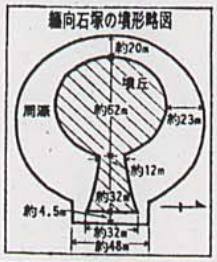
纒向石塚 箸墓古墳の原型

邪馬台国畿内説を補強

橿原考古研調査



古代へのロマンを秘め、発掘調査が進む纒向石塚（点線内＝本社ヘリコプターから）



奈良県桜井市の纒向（まきむく）遺跡にある弥生時代の墳丘墓「纒向石塚」で発掘調査を進めている同県立橿原考古学研究所と同市教委は八日、この墳丘墓が特異な前方後円形をしており、わが国最古の前方後円墳で邪馬台国の女王卑弥呼の墓とも言われる箸墓（はしはか）古墳の原型だったと発表した。この形は北部九州や関東地方の墳墓にも受け継がれているため、纒向地区一帯は三世紀にわが国の中心地だった可能性が強まり、邪馬台国畿内説を補強する資料の一つとなりそうだ。

同遺跡は、弥生時代後期（三世紀）から古墳時代にかけてのわが国最大の集落遺跡。運河遺構や掘っ立て柱建物、さらに関東以西の全国各地で焼かれた土器が大量に出土し、邪馬台国畿内説の根拠の一つになっている。

纒向石塚は同遺跡の北西部にあり、弥生期では全国最大級の墳丘墓。これまでの調査で祭祀（さいし）用の鳥形木製品、呪（じゅ）術的な弧文の文様を施した円形板製品などが出土し、集落の王墓と見られている。

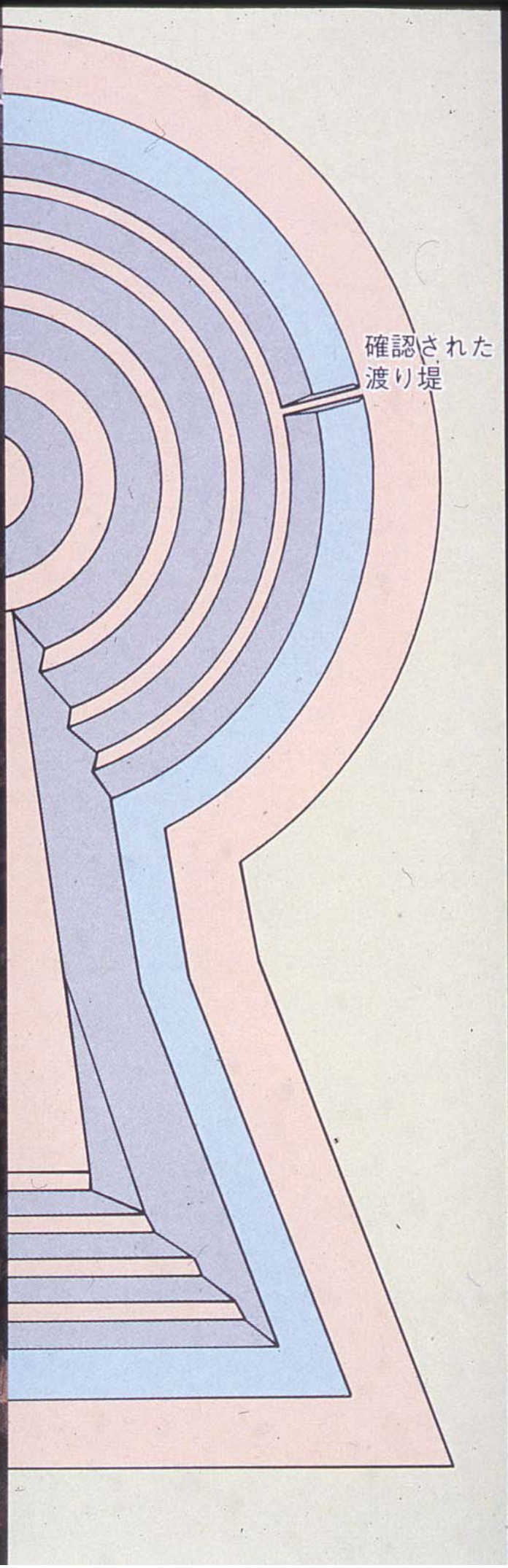
今回の調査で、纒向石塚は全長九十四㍍で、幅四・五―二十三㍍の周濠に囲まれていることがわかった。墳の形は、先端部が三味線のバチ状に開いた方形と、不整形な円形が組み合わさった特異な「前方後円形」だった。

方形部は長さ三十二㍍で、先端部の幅も三十二㍍。後円部は長径六十四㍍、短径六十二㍍。細くなった連結部の幅は十二㍍だった。

後円部が前方部に比べて大きいうえ、前方部の先端が急に外側に開く特殊な墳形は、同じ纒向遺跡内にある箸墓古墳にそっくり。同古墳は三世紀後半に築造された全長二百七十六㍍の巨大古墳で、橿原考古学研究所は纒向石塚が箸墓古墳の原型と断定した。

また、後円部の長径と前方部の長さの比率は二対一で、この比率に基づいた墳丘墓が、後に築かれた千葉県・神門三号墓、福岡県那珂八幡墓など全国十数か所にも出現しており、纒向遺跡の墳丘墓の造営プランが関東以西の日本各地に影響を及ぼしたことも確実となった。

墳丘墓　階級社会が現れた弥生中期ごろ出現した権力者の墓。古墳の前段階とする説があるが、最大級の纒向石塚でも統一国家出現のシンボル箸墓古墳に比べ、体積だけでも約百分の一と大きな隔絶があるため、「墳丘墓」と呼んで古墳と区別される。

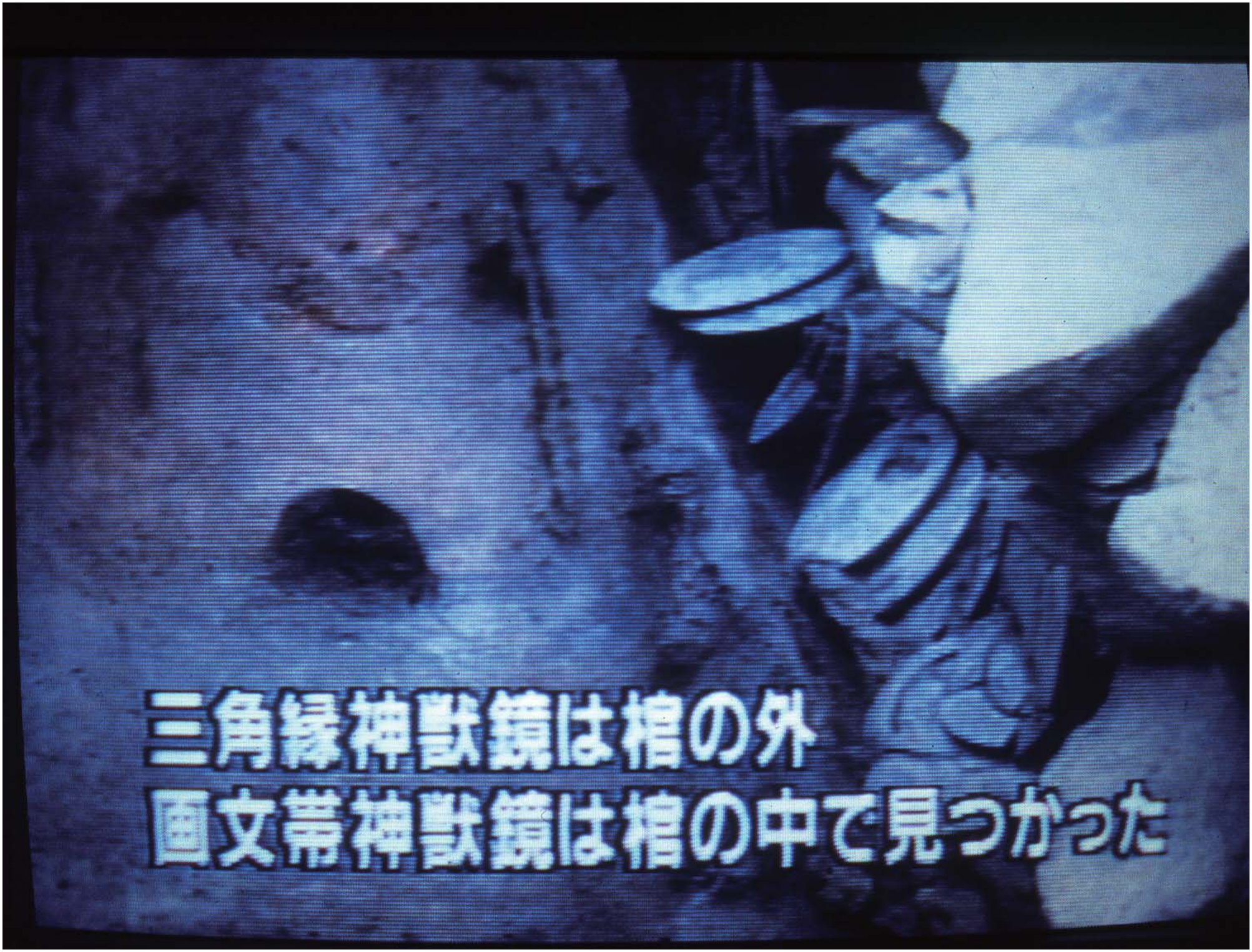

確認された
渡り堤

'95 3 24

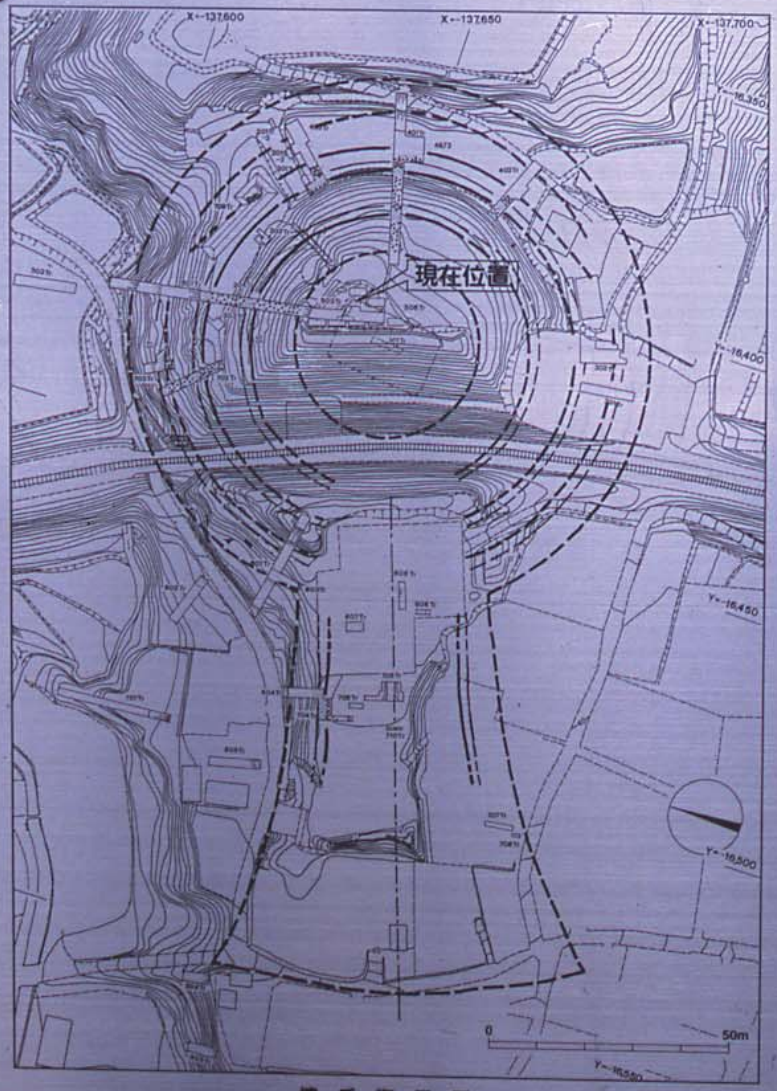
'11 3 3

'11 3 2

黒塚古墳(奈良・天理市)


三角縁神獣鏡は棺の外
画文帯神獣鏡は棺の中で見つかった

三角縁神獣鏡



墳丘復元図

史跡 椿井大塚山古墳

（平成12年9月6日　国史跡指定）

椿井大塚山古墳は、木津川を望む段丘上に立地する古墳時代前期初頭の前方後円墳です。墳丘の規模は、全長約175m、後円部直径約110m、前方部長約80m、前方部墳端幅約76mを測り、高さは後円部約20m、前方部約10m程度であったと考えられます。築造時期は、奈良県桜井市の箸墓古墳を頂点とする定型化した前方後円墳の出現時期（3世紀後半）にあたり、いわゆる邪馬台国の時代の古墳です。

昭和28年（1953）、古墳後円部を横断する鉄道の改良工事が実施され、偶然に発見された竪穴式石室から、三角縁神獣鏡三十数面を含む四十面近くの銅鏡や、おびただしい量の副葬品が出土しました。三角縁神獣鏡については、邪馬台国の女王卑弥呼が中国の魏の皇帝から賜った鏡とする有力な説があります。

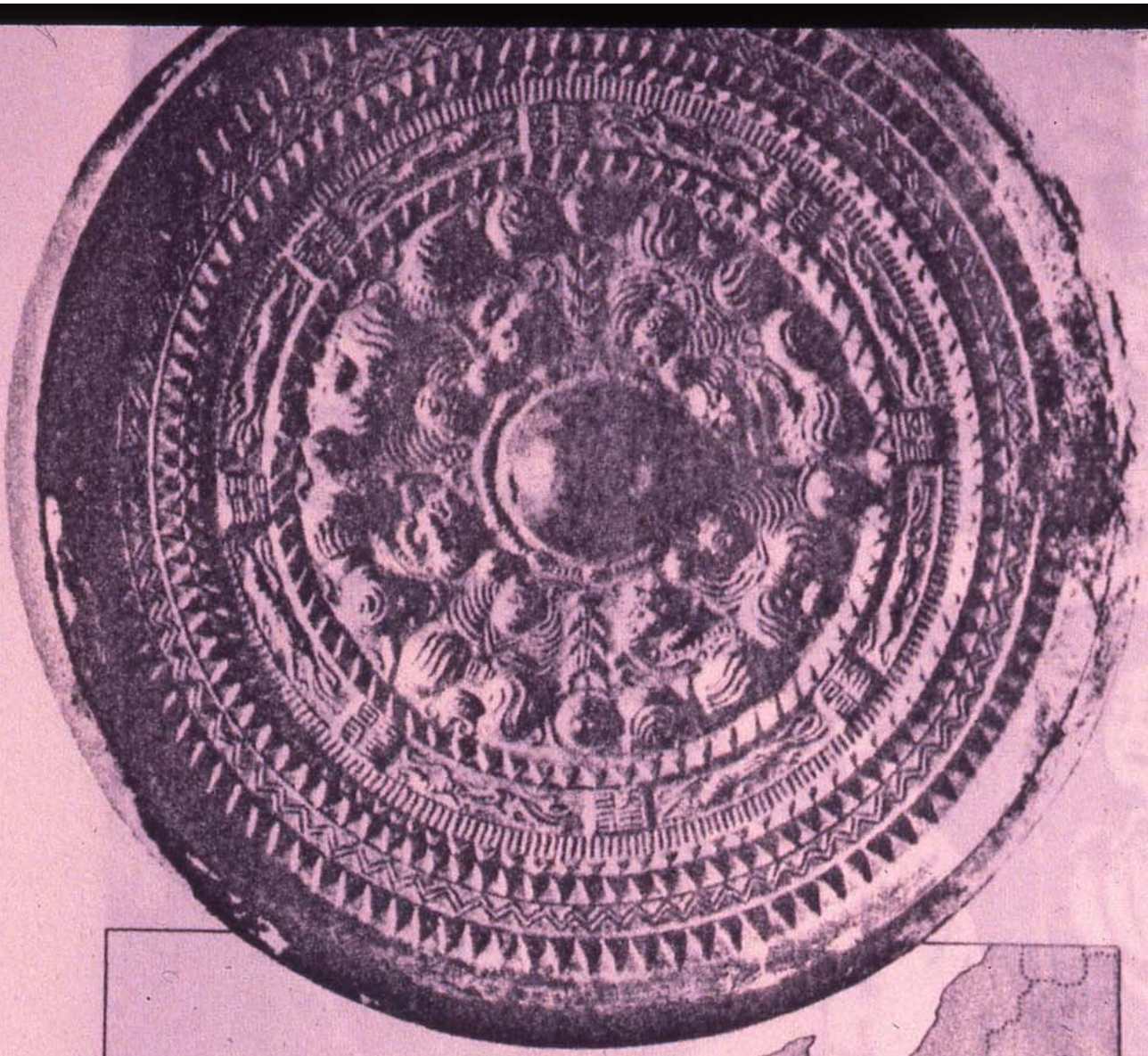
椿井大塚山古墳は、邪馬台国の所在地論争ともからんで、古墳時代成立の鍵を握る記念碑的遺跡です。

平成13年3月　木津川市教育委員会

●注意：史跡の無断現状変更は、固く禁じられています。後世に大切な文化財を伝えましょう。

史跡 椿井大塚山古墳
文部科学大臣指定
平成十二年九月六日
'11 3 4

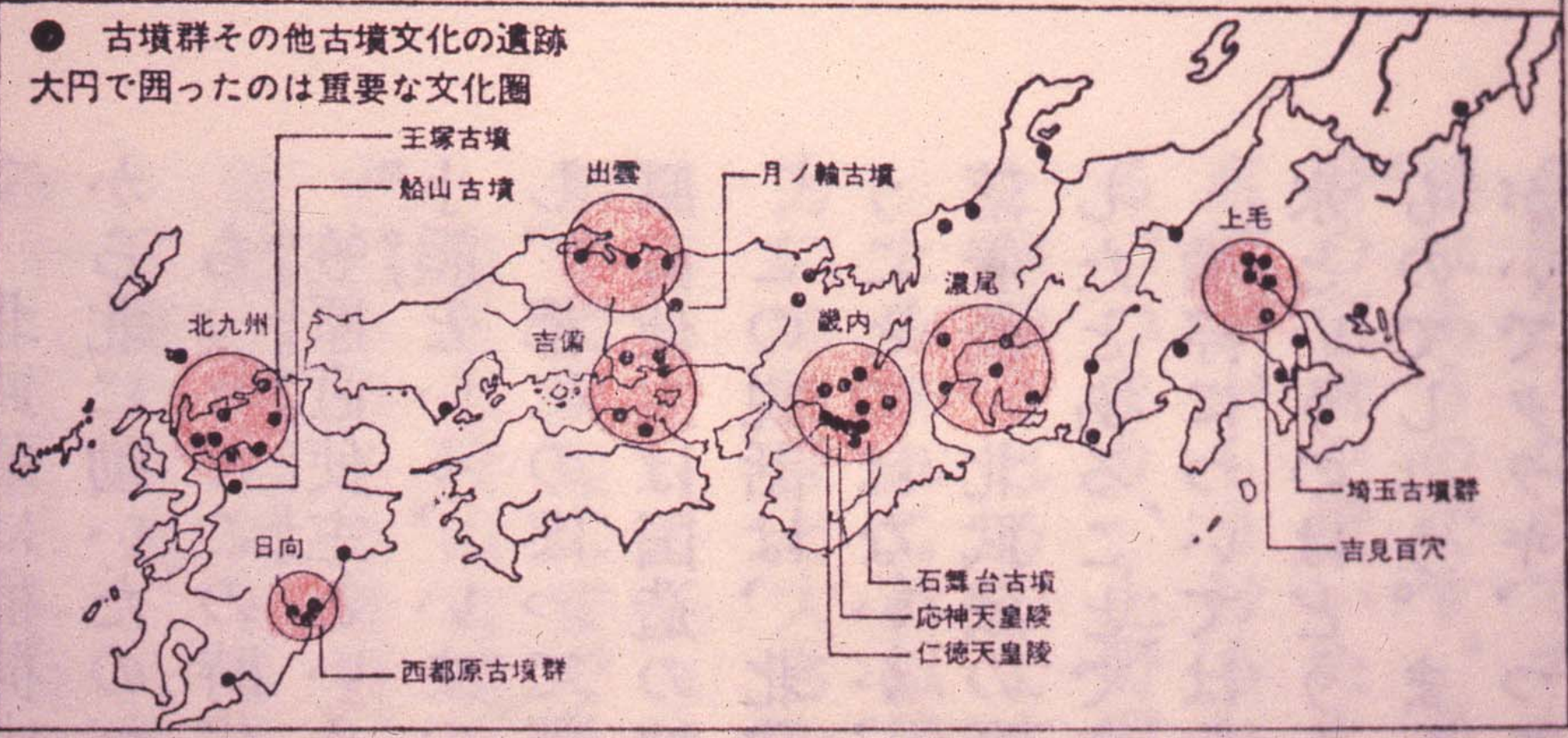
'11 3 4

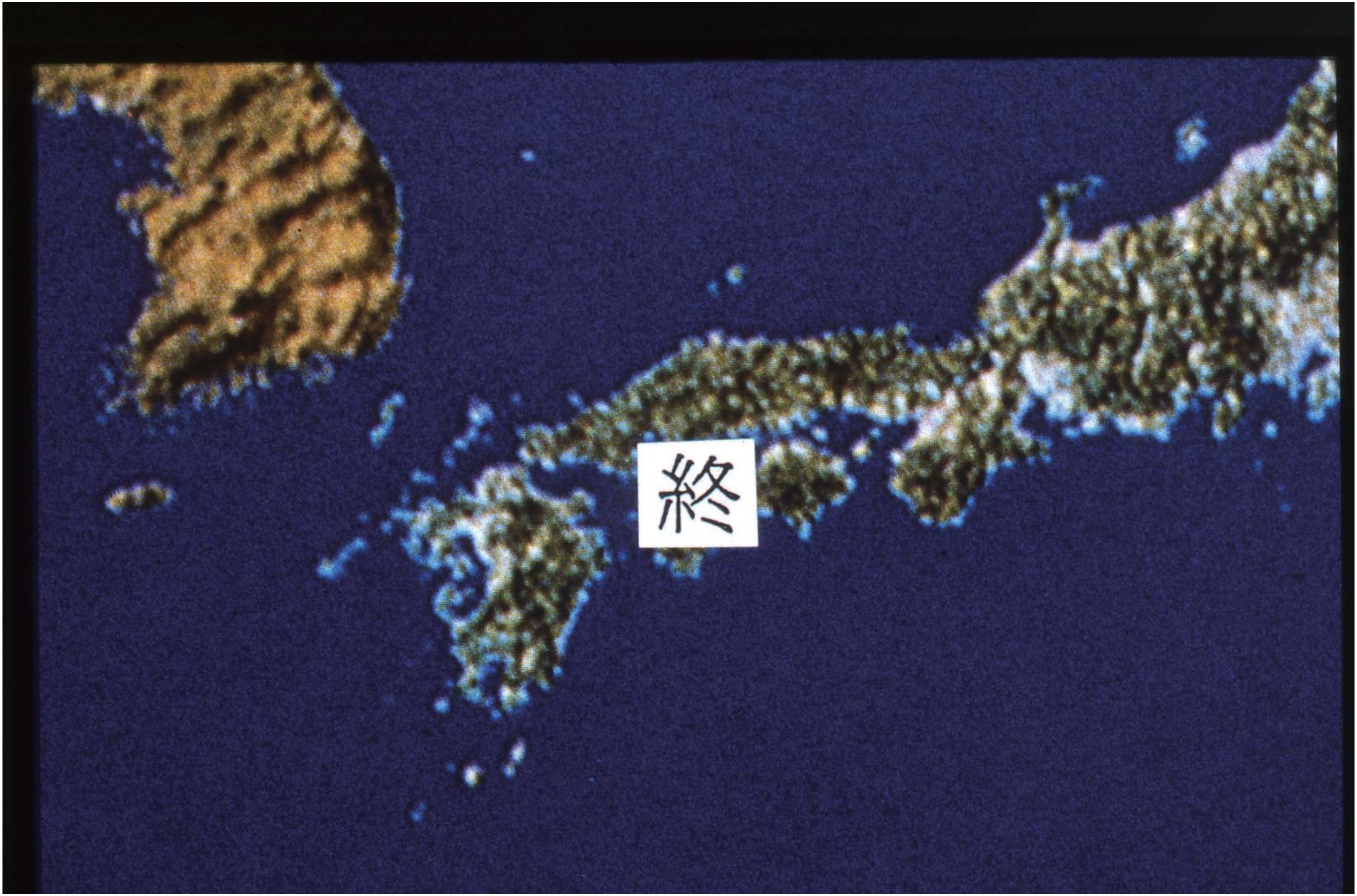


●椿井大塚山古墳と同笵鏡を分有する古墳

古墳の分布と重要な文化圏

● 古墳群その他古墳文化の遺跡
大円で囲ったのは重要な文化圏




終